

令和7年第40週 (9月29日～10月5日)

新型コロナウイルス感染症は減少しました

今週、竹田市調査医療機関からの報告数は27名で、先週の46名から減少しました。

豊肥保健所管内でも、定点あたり7.80人から3.20人に減少し、大分県全体では定点あたり10.10人から8.38人に減少し、流行発生注意報レベルを下回りました。引き続き、手洗い、うがい、咳エチケット、換気といった基本的な感染対策を行い、注意していきましょう。

伝染性紅斑の報告が減少しましたが、6週連続で報告が続いています

今週の報告数は1名で、先週の5名から減少しました。大分県全体の定点あたりの報告数は3.36人となり、先週の2.64人より増加し、流行発生警報の終息基準値（定点あたり1.00人）には至っていません。大分県全体では、第23週（6/2～6/8）に流行発生警報開始基準値を超えて以降、報告数の多い状態が続いています。

水痘（みずぼうそう）の報告がありました

今週は1名の報告がありました。豊肥保健所では定点あたり0.33人、大分県内では定点あたり0.44人となっています。

水痘は、水痘・帯状疱疹ウイルスによる感染症です。発症すると発熱と全身にかゆみを伴う小さな発疹(水ぶくれ)が現れます。感染力が非常に強く、主にくしゃみや咳による飛沫、または発疹の内容物との接触で広がります。発症した場合は、学校保健安全法に基づき、登校・登園を控え、発疹がかさぶたになるまで自宅で安静に過ごしてください。

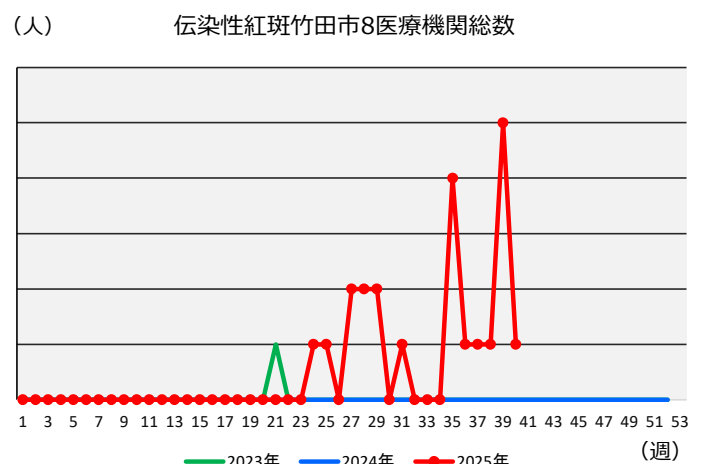
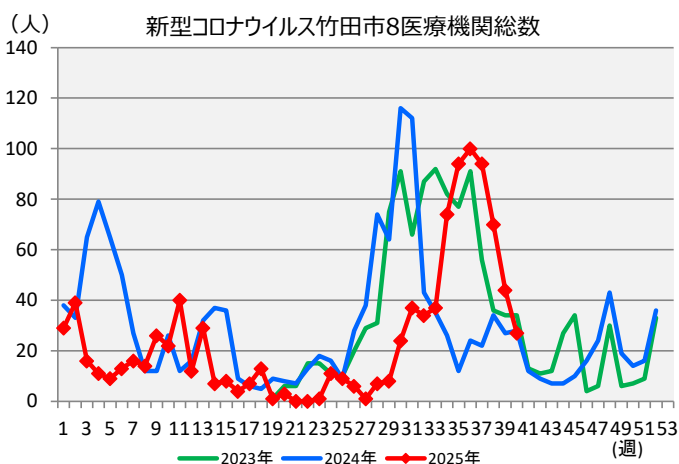
予防にはワクチン接種が最も有効です。定期予防接種として、1～3歳未満の間に2回接種とすることになっています。この2回接種により、ほとんどの方が長期間にわたり免疫を獲得します。



(第40週)

(調査医療機関8か所の総患者数)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱（プール熱）	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘（みずぼうそう）	手足口病	伝染性紅斑（リンゴ病）	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	マイコプラズマ肺炎	麻しん（全数報告）	風しん（全数報告）	百日咳（全数報告）	つつが虫病（全数報告）
	A型	B型	不明																
0歳																			
1～3歳									1										
4～6歳																			
7～9歳											1								
10～14歳				1															
15～19歳								1											
20歳以上				26				2											
今週				27				3	1		1								
70歳以上（再掲）				14															
先週	2			46				2			5	1							



でんせんせいこうはん

伝染性紅斑

両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから「リンゴ病」とも呼ばれる小児に多い感染症です。



10～20日の潜伏期間の後
微熱・かぜに似た症状
この時期にウイルスの排出が最も多くなります。



こんな症状がみられます

ほっぺたがリンゴのように
赤くなります（紅斑）

発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。発しんは1週間程度で消失しますが、中には長引いたり、一度消えた発しんが短期間のうちに再び出現したりすることがあります。

予防と対策

手洗い、マスク着用など

基本的な感染症対策を心がけましょう！

伝染性紅斑の主な感染経路は、「飛まつ感染」と「接触感染」です。こどもを感染から守るため、周囲の人も基本的な感染症対策を心がけましょう。

妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ

これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出るなど、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関に相談しましょう。また、感染しても症状がないこと（不顕性感染）もあるため、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、妊婦健診の際に、医師に伝えてください。



詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください

 厚生労働省

感染症対策課 2025年5月作成

